

地域連携教員・社会教育主事有資格教職員向け

【上都賀版】

「地域とともにある学校づくり」  
推進のための

校 内 研 修  
ト リ セ ッ

栃木県教育委員会事務局上都賀教育事務所

令和6(2024)年2月



## 【はじめに】

急激な社会の変化に伴い、学校と地域を取り巻く課題が複雑化・多様化する中、新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を、学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すことになりました。

本地区におきましても、令和5年度から、全ての小・中学校にコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）が導入され、「地域とともにある学校づくり」が推進されています。今後は、より一層教職員一人一人が地域との連携・協働に関する理解を深め、学校全体で取り組んでいくことが求められており、各校における校内研修の実施は必要不可欠です。

本書は、管内の小・中・高等学校等が、「地域とともにある学校づくり」を推進するための校内研修を実施する際に、その企画・運営等に携わる教職員（地域連携教員・社会教育主事有資格教職員）のためのガイドとしていただくため作成いたしました。作成にあたりましては、令和5年度上都賀地区地域連携教員研修の内容をもとに、上都賀地区現職教員社会教育主事会様、鹿沼市・日光市教育委員会様、栃木県総合教育センターの協力を得て、管内の社会教育主事有資格教職員及び地域連携教員のアイディアを集結いたしました。

内容は、「第1章【基本編】」「第2章【プログラム編】」「第3章【アイスブレイク編】」の3編で構成しています。本書が、校内研修の機会でも活用され、各校において「地域とともにある学校づくり」を推進する上での一助となりますことを期待しております。

令和6（2024）年2月

栃木県教育委員会事務局上都賀教育事務所長 早乙女 智

## 【目 次】

*本書の使い方	P2
■第1章【基本編】校内研修の企画・運営をしましょう!	P3
1 校内研修に必要な内容	P4
2 校内研修の企画と運営	P4
3 ワークショップのすすめ	P5
4 校内研修の評価	P6
■第2章【プログラム編】プログラムを選んで実践してみよう!	P7
【プログラム1】「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）ってなあに？」	P8
<b>要点</b> 講師選定・依頼の流れ	P9
【プログラム2】「なぜ今、地域との連携・協働が必要なの？」	P10
<b>要点</b> 和やかな雰囲気での協議を進めるポイント	P11
【プログラム3】「地域との連携・協働の手順を確認しよう」	P12
【資料1】「地域との連携・協働の手順Q&A」	P13
【資料2】「地域との連携 協働 相談シート」	P15
【プログラム4】「フィールドワークに出かけよう」	P16
<b>要点</b> 名札の作成について	P17
【プログラム5】「もっと教えて 地域のこと」	P18
【プログラム6】「地域学校協働活動を見直そう」	P20
■第3章【アイスブレイク編】安心して参加できる雰囲気を作りましょう!	P22
1 自己紹介	P23
2 あいさつ・ゲーム・軽運動	P24
3 クイズ	P26
4 グループ作り	P27
5 ワークシート	P28
*【作成委員】・【事務局】	P31
*【参考資料】	P32

# 【本書の使い方】

本書は、名称を『地域連携教員・社会教育主事有資格教職員向け 【上都賀版】「地域とともにある学校づくり」推進のための 校内研修トリセツ』といたしました。地域連携教員や社会教育主事有資格教職員が「地域とともにある学校づくり」を推進するための校内研修を実施する際のガイドとしていただくために作成したものです。

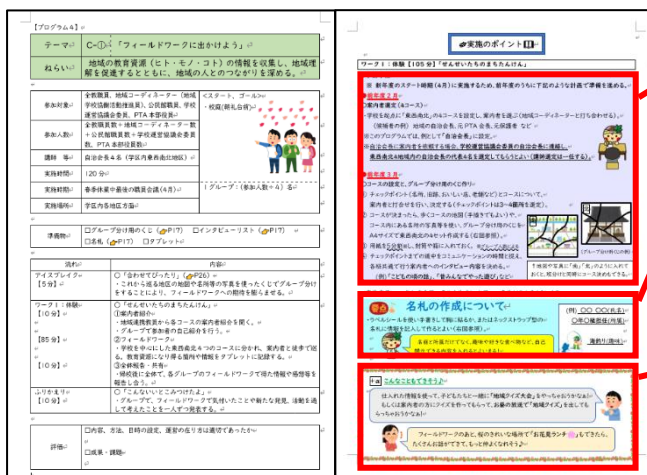
親しみを込めて“トリセツ”と呼び、活用いただければ幸いです。

## ■第1章【基本編】校内研修の企画・運営をしましょう！

- 第1章のとびらでは、校内研修の企画・運営が地域連携教員の職務であることを押さえています。
- P4の「1 校内研修に必要な内容」の表1がカテゴリーごとに色分けされており、全編を通して関わる内容について統一した着色にしています。

## ■第2章【プログラム編】プログラムを選んで実践してみましょう！

- 第2章のとびらには、何から研修したら良いか分からない学校向けに、地域との連携・協働において予想される状況を吹き出しに入れ、実態に近いものから実践していただく手掛かりとしています。
- プログラム3の【資料1、2】は、そのまま印刷またはQRコードからダウンロードして自由に使うことができます。
- 見開きの左側には展開案、右側には実施の際のポイントを掲載しています。



紫色は、事前準備のポイントです。

青色は、該当プログラムだけでなく、校内研修全般を通して応用できる内容です。

花のフレームは、+αこんなこともできそう♪なアイデアを掲載しています。

## ■第3章【アイスブレイク編】安心して参加できる雰囲気を作りましょう！

- 第3章のとびらにはアイスブレイク集の目次を入れています。
- 5 ワークシートは、そのまま印刷またはQRコードからダウンロードして自由に使うことができます。

# 第 一 章

## 【基本編】校内研修の企画・運営をしましょう！



地域との連携・協働活動を組織的・効果的に進めるためには、教職員一人一人が地域連携に関する理解を深め、学校全体で取り組んでいくことが求められます。そのためには、校内研修の実施は必要不可欠です。

校内研修の企画・運営は、地域連携教員の職務の一つです。

### 地域連携教員の役割（職務）

#### プランナー（企画者）

- ・ 地域連携に関する計画の作成及び見直し
- ・ 地域連携に関する校内研修の企画・運営

#### コーディネーター（調整者）

- ・ 地域連携に関する活動の連絡調整
- ・ 地域連携に関する情報収集・発信

#### アドバイザー（助言者）

- ・ 地域連携に関する活動の実践
- ・ 地域連携に関する活動の支援
- ・ 計画や活動についての評価

## ■第1章

### 1 校内研修に必要な内容（表1）

項目	No.	内容
A 地域連携の経緯や意義について	A-①	・法令や答申等の流れの確認、先進事例の紹介 等 例：「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）ってなあに？」（☞P8）
	A-②	・地域との連携・協働の必要性 等 例：「なぜ今、地域との連携・協働が必要なの？」（☞P10）
B 連携活動の体制づくりについて	B	・地域との連携・協働マニュアルの確認 等 例：「地域との連携・協働の手順を確認しよう」（☞P12）
C 地域連携に関する活動づくりについて	C-①	・地域情報の収集、地域理解促進 等 例：「フィールドワークに出かけよう」（☞P16）
	C-②	・地域の方との顔の見える関係づくり 等 例：「もっと教えて 地域のこと」（☞P18）
	C-③	・活動の見直し、点検・改善 等 例：「地域学校協働活動を見直そう」（☞P20）

### 2 校内研修の企画と運営

#### (1) 研修のねらいの設定

自校の取組状況、児童・生徒の実態、教職員のニーズ等を把握して、研修のねらいを明確に設定します。研修のねらいに照らし合わせて研修内容（表1）や方法を検討します。

#### (2) 研修方法の選択・組み合わせ

研修のねらいや教職員のニーズに合わせて、

- 伝達型（講話・講義等）
- 参加・体験型（ワークショップ・フィールドワーク等）
- 課題研究型（事例研究等）

を、適切に選択したり組み合わせたりします。

教職員と保護者や地域住民と一緒に研修できる機会を設けるとより効果的です。



#### (3) その他

企画・運営や講師情報等のご相談はこちら

- 上都賀教育事務所 ふれあい学習課（0289-62-7167）
- 鹿沼市教育委員会事務局 生涯学習課（0289-63-3498）
- 日光市教育委員会事務局 生涯学習課（0288-21-5182）
- 栃木県総合教育センター 生涯学習部（028-665-7206）

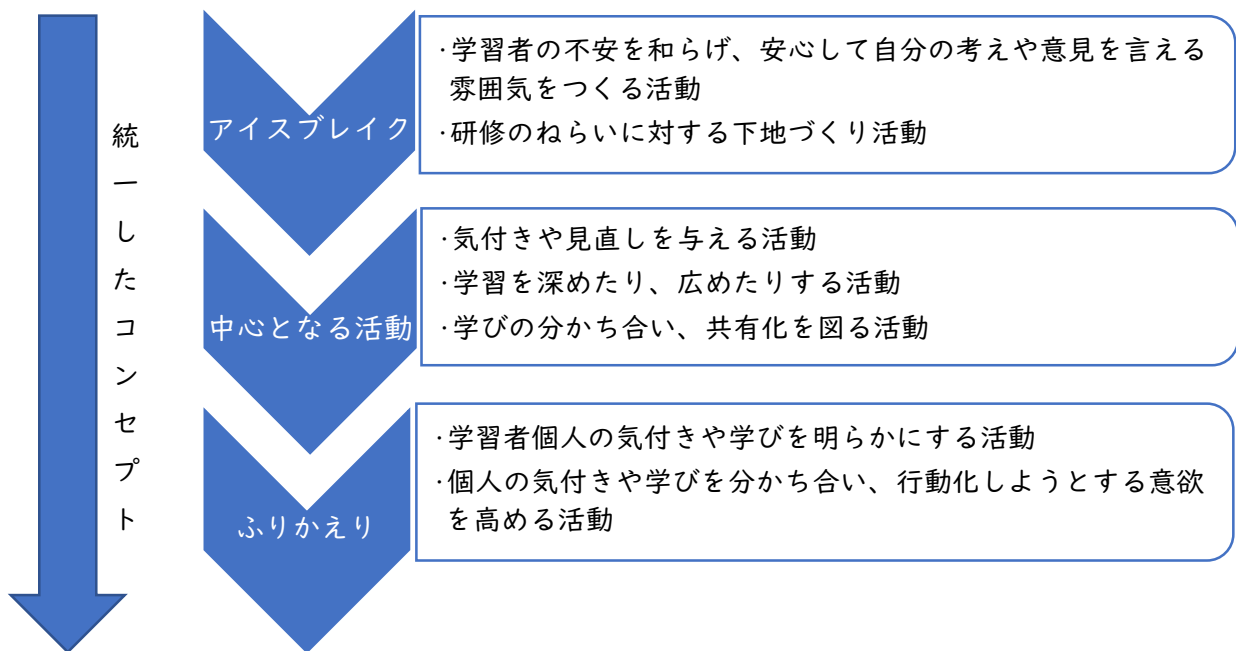
### 3 ワークショップのすすめ

#### (1) ワークショップとは

「教える側」と「教えられる側」の関係で学ぶ研修ではなく、学習者が積極的に他者の意見や発想から、**気づき** **学び合い** 最後に自らの **ふりかえり** をするという研修の過程での学びを大切にします。

問題解決を図るとともに、知識や技能（スキル）、態度を身に付けられるという特徴があり、学習者が主体的に参加することで、自ら納得し意欲が喚起され態度や行動につながる手法です。

#### (2) ワークショップの流れ



#### 【実践例】 「みんなで学ぼう 地域とともにある学校づくり」(75分)

○ねらい：全教職員の地域連携に関する理解を深め、連携活動への意識を高める

○参加者：全教職員、学校運営協議会委員 ○会場：図書室（アイランド型 4人×8グループ）

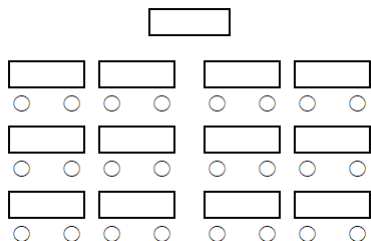
○ファシリテーター及び講師：上都賀教育事務所ふれあい学習課

流れ	内容
アイスブレイク 【5分】	○「イニシャル自己紹介」（👉P23） ・自分の名前を使った自己紹介をすることにより、和やかな雰囲気の中で教職員と学校運営協議会員の顔合わせを行う。
ワーク1：協議 【15分】	○「本音で語り合おう 地域連携」 ・これまでの地域と連携・協働した取組について話し合う。
ワーク2：講話 【20分】	○「それでもなぜ、地域との連携・協働が必要なのか？」 ・法令や答申等の講話や他校の事例を聞く。
ワーク3：協議 【25分】	○「新たな視点で、地域と連携・協働できそうなことは？」 ・グループで話し合い、全体で共有する。
ふりかえり 【10分】	○「やってみよう 地域連携」 ・自分の立場でできることを考え、グループ内で発表し合う。

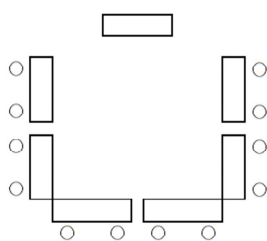
### (3) 心地よい会場づくり

学びやすい環境づくりのため、会場レイアウトを工夫します。

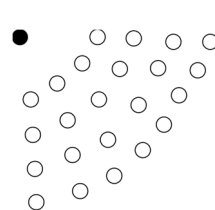
○スクール型（例：講話）



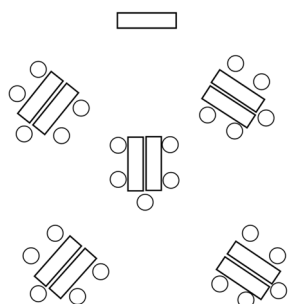
○コの字型（例：少人数）



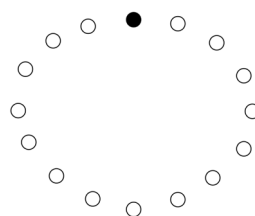
○扇形（例：コンサート）



○アイランド型（例：グループ作業）



○サークル型（例：全体の活動）



### (4) ファシリテーターの役割

ワークショップを進行する人を「ファシリテーター」と呼びます。日本語に訳すと「容易にすること」「促進」の意味があり、「教える」ことが中心の指導者「インストラクター」とは異なる役割があります。開放的な学習の雰囲気作りを心がけ、学習者の主体性を尊重し、特定の方向に意見を導かないように、学習者の学びを促します。

校内研修では、各校の社会教育主事有資格教職員や地域連携教員が「ファシリテーター」を務めるとスムーズです。

#### <雰囲気作りのポイント>

- 笑顔や明るい声かけ
- 適切な言葉遣い
- 自由な発言機会の保障
- 受容的・共感的な態度
- 学習者とファシリテーターの対等な関係

#### <準備物の例>

- ワークシート、配付資料
- タイマー、ベル
- ポインター
- パソコン、プロジェクター
- ペン、付せん紙、模造紙
- その他ワークショップに必要なもの

## 4 校内研修の評価

研修実施後のアンケートや年度末等を実施する学校評価に位置づけて研修の評価を行いましょう。研修内容、方法、日時の設定、運営の在り方、研修の成果や課題等、項目を工夫して実施しましょう。得られた結果を次の計画に反映させることで校内研修の充実・改善につながります。



# 第 2 章

【プログラム編】プログラムを選んで実践してみましょう！



あなたの学校は、どれに近いですか？実態に合わせて、必要なプログラムを選びましょう。

👉P8【プログラム1】A-①  
「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)ってなあに？」

「コミュニティ・スクールが始まりましたが、校長先生や教頭先生にしか関係のないことと考えている教職員が多いようです。全教職員に当事者意識をもって欲しいです。」



👉P10【プログラム2】A-②  
「なぜ今、地域との連携・協働が必要なの？」

「本校はすでにたくさんのボランティアさんに入っていており、学校と地域の連携・協働活動がうまく行われています。これ以上必要ない気がするのですが・・・。」



👉P12【プログラム3】B  
「地域との連携・協働の手順を確認しよう」

「学校と地域の連携・協働活動に一生懸命なのは、いつも同じ先生ばかりです。これから挑戦してみたい！という先生方にも気軽にチャレンジして欲しいです。」



👉P16【プログラム4】C-①  
「フィールドワークに出かけよう」

「よその地域から通勤している教職員が多いため、学校のある地域にどんな教育資源があるのか分かりません。みんなで“せんせいたちのまちたんけん”に出かけてみたいです。」



👉P18【プログラム5】C-②  
「もっと教えて 地域のこと」

「そもそも学校にとっての“地域”とはどんなところなのでしょう？団体や祭り、イベント、年中行事、民俗行事のことなど、地域のことを一番知っている方に聞いてみたいです。」



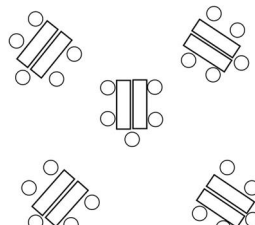
👉P20【プログラム6】C-③  
「地域学校協働活動を見直そう」

「恒例になっている活動がありますが、何のためにやっているか本来の目的が曖昧になっているものもあります。それぞれの活動の点検・見直しを行いたいです。」



【プログラムⅠ】

テーマ	A-① 「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)ってなあに？」
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の意義を知る。</li> <li>・校長が作成する学校運営の基本方針の承認を通して、学校と地域の目指すところについて理解する。</li> </ul>

参加対象	全教職員、学校運営協議会委員 (市教育委員会担当職員)	会場レイアウト <アイランド型> 
参加人数	全教職員数+学校運営協議会委員数 (+市教育委員会担当職員数)	
講師等	上都賀教育事務所ふれあい学習課	
実施時間	90分	
実施時期	学校運営協議会(5月)	1グループ: 4~5名
実施場所	会議室	・教職員は若手・ベテラン混合で、学校運営協議会委員をバラバラに配置したグループを事前に設定する。

準備物	<input type="checkbox"/> 学校運営協議会資料 <input type="checkbox"/> 講師資料 <input type="checkbox"/> 講師から指示があったもの <input type="checkbox"/> 名札(👉P17) <input type="checkbox"/> パソコン <input type="checkbox"/> プロジェクター <input type="checkbox"/> モニター
-----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

流れ	内容
アイスブレイク 【10分】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「心の天気自己紹介」(👉P23)</li> <li>・初めての会議で緊張していることが予想される学習者が、今の気持ちを天気で表すことで安心して参加できる雰囲気を作る。</li> </ul>
ワーク1: 講話 【25分】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)について」</li> <li>・講師からの講話を聞く。</li> </ul>
ワーク2: 協議 【10分】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「みんなで目指すところを共有しましょう」</li> <li>①校長による学校運営の基本方針(学校として育成を目指す資質・能力、目指すこども像)についての説明を聞く。</li> <li>②校長の説明を受け、気になったところやもっと知りたいことなどについてグループで自由に意見交換を行い、話題になったことを全体で発表し、状況に応じて校長が回答する。</li> <li>③学校運営協議会委員は、学校運営の基本方針の承認をする。</li> </ul>
ふりかえり 【10分】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「みんなで△△学校の子どもを育てましょう！」</li> <li>・グループでコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)について知ったことや、今年度学校として目指すことを確認する。さらに、そのために自分の立場でできそうなことを考え、一人ずつ発表する。</li> </ul>

評価	<input type="checkbox"/> 内容、方法、日時の設定、運営の在り方は適切であったか  <input type="checkbox"/> 成果・課題
----	-------------------------------------------------------------------------------------------

## 実施のポイント

### ワーク1：講話【25分】「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について」

〈事前準備〉 ・講師を選定する（依頼の流れについては下記参照）。

〈実施当日〉

- ・講師紹介後、講演をお願いする。
- ・講演後は学習者の気付きを大切にするため、謝辞の中で講演の内容をまとめないようにする。

## 要点 講師選定・依頼の流れ

早めの相談を  
待っているまる♪

- ① 実施時期・内容の決定
- ② 講師選定（下記参照）
- ③ 講師への連絡（実施時期・内容・講演時間・準備物、当日の送迎、謝金の有無等）  
・特に「講演のねらい」は、明確に伝え、詳細に打合せする。



### ◎講師選定における連絡先

(行政) 謝金・ 交通費なし	上都賀教育事務所 ふれあい学習課	0289 (62) 7167
	鹿沼市教育委員会事務局 生涯学習課	0289 (63) 3498
	日光市教育委員会事務局 生涯学習課	0288 (21) 5182
	栃木県総合教育センター 生涯学習部	028 (665) 7206
(有識者)	協働アドバイザー（栃木県県民協働推進課）	028 (623) 3422
	コミュニティ・スクール推進員（文部科学省 CS マスター）	同省 HP 参照
	一般社団法人とちぎ市民協働研究会理事	同会 HP 参照
(その他)	★福祉・防災に関しては…	鹿沼市社会福祉協議会 0289 (65) 5191
		日光市社会福祉協議会 0288 (25) 3070
	★NPO や多様な団体とつながりたいときは…	かぬま市民活動広場ふらっと 0289 (60) 2212
		日光市民活動支援センター 0288 (22) 2271
		とちぎボランティアNPOセンター 028 (623) 3455
		(ぼ・ぼ・ら)

☆学校の現状に応じてプログラムを変えてみましょう。

(例)

本校の教職員の中には、そもそもコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）自体が何なのか分からない人が多いのよね。だから、ワーク1の講話を50分にして、まずは専門の方からじっくりと説明を聞き、ワーク2では、講話の内容を踏まえて、現段階で不安なことや心配なことをざっくばらんに話し合ってもらいたいかな。



【A小学校】



【B中学校】

第1回の学校運営協議会は、会議に初めて参加する委員や教職員もいるから、最後のふりかえりでは、学校運営協議会に参加してみたの感想を伝え合ってもらう時間をとりたいたいな。皆様の意見を取り入れて、第2回の会議をもっと盛り上げていきたいね。

### そもそも「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」って何???

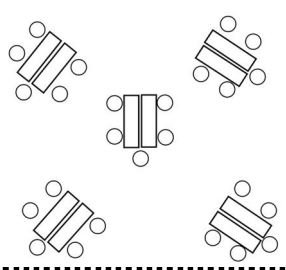
学校運営協議会を設置した学校のこと。学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。

### 学校運営協議会では主にどんなことをしているの？

- ◇学校運営の基本方針の承認にあたり、協議会委員による議論を行う。
- ◇学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像を共有する。
- ◇各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきこと・役割分担を明確にする。

【プログラム2】

テーマ	A-② 「なぜ今、地域との連携・協働が必要なの？」
ねらい	全教職員と学校運営協議会委員が、学校と地域の連携・協働の必要性について理解を深め、次年度に向けての効果的な取組を考える。

参加対象	全教職員、学校運営協議会委員 (市教育委員会担当職員)	会場レイアウト <アイランド型> 
参加人数	全教職員数+学校運営協議会委員数 (+市教育委員会担当職員数)	
講師等	上都賀教育事務所ふれあい学習課	
実施時間	90分	
実施時期	学校運営協議会(1月)	1グループ: 4~5名
実施場所	会議室	・教職員は若手・ベテラン混合で、学校運営協議会委員をバラバラに配置したグループを事前に設定する。

準備物	<input type="checkbox"/> ワークシート (👉P29) <input type="checkbox"/> 名札 (👉P17) <input type="checkbox"/> パソコン <input type="checkbox"/> プロジェクター <input type="checkbox"/> モニター <input type="checkbox"/> 模造紙 <input type="checkbox"/> ペン <input type="checkbox"/> 付せん紙(2色)
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

流れ	内容
アイスブレイク 【10分】	○「私を肯定的に見ると」(👉P25、29) ・マイナス面(弱み)をプラス面(強み)へと捉え直す視点をもてるようにする。
ワーク1: 講話 【20分】	○「学校と地域の連携・協働の必要性について」 ・講師からの講話を聞く。
ワーク2: 協議 【30分】	○「私が考える、地域の子どもたちの“強み”と“弱み”」 ・グループで地域の子どもたちの“強み”と“弱み”について話し合い、模造紙に見える化する。
ワーク3: 協議 【20分】	○「私たちのできる“よりよい連携・協働”ってどんなもの？」 ①ワーク2を受け、グループで子どもの“強み”を伸ばし“弱み”を克服するために、学校と保護者や地域住民等と一緒にできそうなアイデアを出し合う。 ②グループの代表者が①のアイデアを全体で発表する。
ふりかえり 【10分】	○「みんなで育てよう!地域の子」 ・グループで学校と地域の連携・協働について考えたことを一人ずつ発表する。

評価	<input type="checkbox"/> 内容、方法、日時の設定、運営の在り方は適切であったか <input type="checkbox"/> 成果・課題
----	---------------------------------------------------------------------------------------

## 実施のポイント

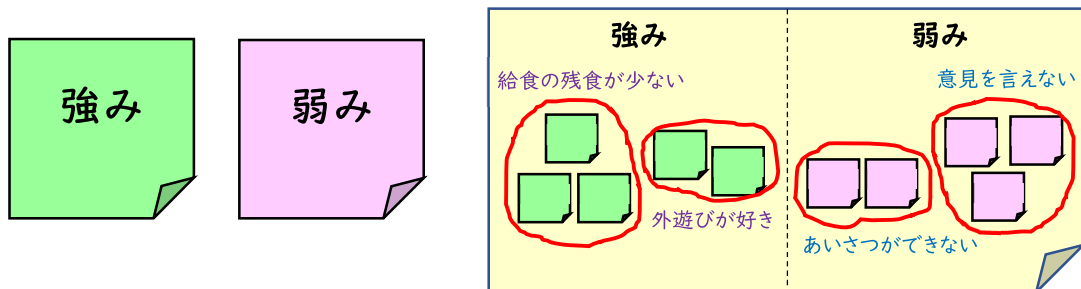
### ワーク1：講話【20分】「学校と地域の連携・協働の必要性について」

- ・講師紹介後、講演をお願いする（➡P9）。

### ワーク2：協議【30分】「私が考える、地域の子どもたちの“強み”と“弱み”」

- ① 正方形（8 cm×8 cm程度）の付せん紙2色、模造紙1枚、色ペン、黒ペン（グループ人数分）を各グループに配付する。
- ② 個人で緑色の付せん紙に地域の子どもたちの“強み”、ピンク色の付せん紙に“弱み”を1枚につき1つずつ記入する。

（模造紙の使い方の例）



- ③ 全員が書き終わったら、順番に模造紙に貼りながら発表していく。似ている意見は近くに貼る。
- ④ 意見のまとめりごとに○で囲み、簡単な見出しをつける。

※ここでの協議は、以下の例のような内容も考えられます。

- 「この地域の子をどんな子どもに育てたいか」
- 「地域の子どもたちに身につけさせたい力は何か」
- 「地域の子どもたちに、こんなことを伝えたい・残したい」
- …など

## 要点 和やかな雰囲気です協議を進めるポイント

### ○協議の進め方

参加者にたくさん話していただきたいときは…

- ・従来の会議のような口の字型の座席配置では発言しにくいので、アイランド型に配置するとよい。
- ・社会教育主事有資格教職員や地域連携教員がファシリテーターとなるとよい。
- ・はじめのあいさつが堅苦しくならないように気をつける。例えば、あいさつにエピソードを入れるだけで、参加者が発言しやすい雰囲気がつくることができる。

○ 最近ギターが趣味の○○です。皆さんの最近の“推し”は何ですか？

✗ 本日はお足元の悪い中、お集まりいただきありがとうございます。

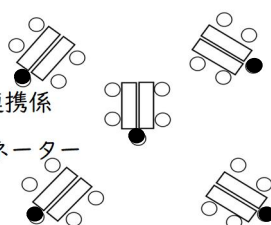
（エピソードテーマの例） ●最近嬉しかったこと ●子どもの頃の自分の話(夢)  
●最近読んだ本や雑誌で印象に残っていること ●私の“推し”は… など

### ○協議をふくらませるポイント ※アイスブレイクでお互いに話しやすい環境を整えておくことに加えて…

- ・他の人の意見を尊重し、否定をしない。
- ・傾聴（相手を見て、うなずいて、笑顔で聴く）
- ・他の意見を参考にして、どんどん発想をふくらませる。
- ・集まった人全員が発言できるようにする。
- ・発言はポジティブな意見となるように心がける。

【プログラム3】

テーマ	B 「地域との連携・協働の手順を確認しよう」
ねらい	地域との連携・協働を企画・実施する際の手順について知る。

参加対象	全教職員、地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）	会場レイアウト <アイランド型>  ●生涯学習・地域連携係 or 地域コーディネーター ○学習者
参加人数	全教職員数+地域コーディネーター数	
講師等	地域連携教員、生涯学習・地域連携係	
実施時間	60分	
実施時期	6月	1グループ：4～5名
実施場所	会議室	・学年別、若手・ベテラン混合のグループを事前に設定する。※各グループに生涯学習・地域連携係や地域コーディネーターを一人ずつ配置する。

準備物	<input type="checkbox"/> ワークシート（👉P28） <input type="checkbox"/> タブレット（各自） <input type="checkbox"/> 【資料1】「地域との連携・協働の手順 Q&A」（👉P13、14※データ） <input type="checkbox"/> 【資料2】「地域との連携・協働 相談シート」（👉P15※データ）
-----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

下のQRコードから事前にデータをダウンロードし、各自タブレットから見られるようにしておくまる！



流れ	内容
アイスブレイク 【10分】	○「どっちを選ぶでショー」（👉P25、28） ・子どもたちの様々な考えや思い、置かれている環境等に寄り添うためには、多様な大人の関わりが必要であることに気付くようにする。
ワーク1：説明 【10分】	○「これでOK～はじめの一歩～」 ・地域連携教員、地域コーディネーターの自己紹介を聞く。 ・各自タブレットで【資料1】を見ながら、地域連携教員の説明を聞く。 ☞ボランティア等は、学校のお手伝いさん（サポーター）ではなく、ともに子どもたちを育てていく仲間（パートナー）であることを知る。
ワーク2：説明、体験 【10分】  【15分】	○「やってみましょう～次の一歩～」 ①各自タブレットで【資料2】を見ながら、地域連携教員から相談シートの書き方及び使い方の説明を聞く。 ②各グループに配置されている生涯学習・地域連携係や地域コーディネーターがリーダーとなり、実際の活動を一つ例に挙げ、【資料2】をグループでタブレットを使って作成してみる。 ☞ボランティア等への要望だけでなく、“ボランティア等と一緒に活動を作る”意識をもって作成する。 ③作成した②をタブレットで全体に共有しながら発表する。
ふりかえり 【5分】	○「気軽にチャレンジ～地域との連携・協働～」 ・グループで学校と地域の連携・協働活動を行う際の手順を再度確認し合い、今年度中にチャレンジしてみたいことを話す。

【資料1】【資料2】のダウンロードはこちら👉

評価	<input type="checkbox"/> 内容、方法、日時の設定、運営の在り方は適切であったか <input type="checkbox"/> 成果・課題
----	---------------------------------------------------------------------------------------



## Q1 なぜ、地域との連携・協働が必要なの？

A 地域の方々は、**学校のパートナー**だからです。

地域と連携・協働した教育活動は、子どもたちの生きる力や郷土愛を育むことにつながります。子どもたちを取り巻く問題は多様化し、学校の力だけでは解決が難しい課題もあります。子どもたちの健やかな成長のために、学校と地域がスクラムを組み、よりよい学校・地域を作っていきます。 **連携・協働する効果は…**

### 教職員にとって…

「より専門的な授業が展開できるようになった！」  
「本物の体験を取り入れた充実した活動になった！」  
「業務にゆとりができた。」



### 子どもたちにとって…

「授業がわかりやすくて楽しい♪」  
「登下校も怖くないよ。」  
「生まれ育ったこのまちが大好きだよ！」



### 地域の方々にとって…

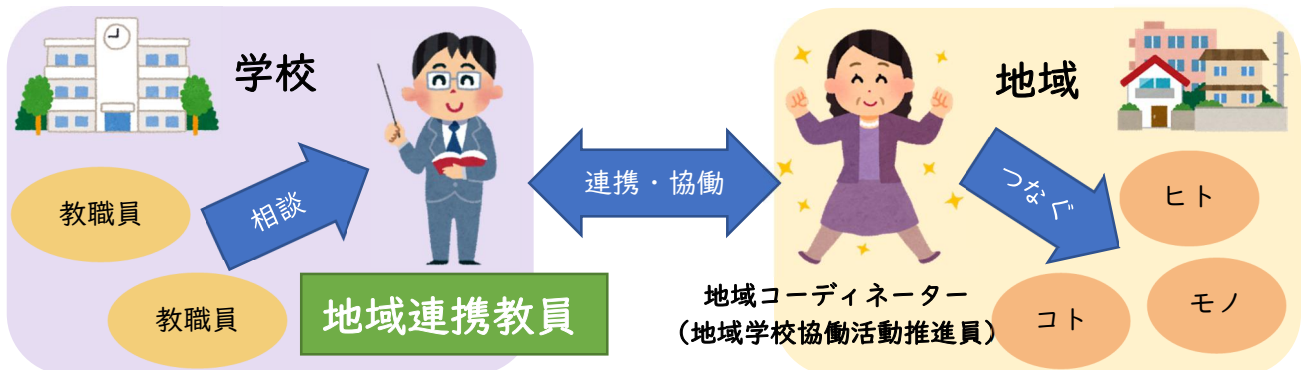
「子どもたちのために何かできることはないかな？」  
「学校で活動したら新しい仲間が増えた！」  
「もっと学びたい！」



## Q2 誰に相談すればいいの？

A **地域連携教員**です。

平成26年から、各学校に1名ずつ配置されました。地域の教育力を生かした教育活動を充実させるために、学校と地域をつなぐ窓口になっています。



## Q3 謝礼や交通費等の取り扱いは？

A 基本的には**無償**です。

金銭的な見返りより、校内での温かな受け入れ体制や子どもたちの笑顔やあいさつの方が、地域の方々の活動の励みになります。感謝の気持ちは、子どもたちからのお礼の手紙や次につながる言葉かけ等で表しましょう。

※一部、実費・交通費・謝礼・弁当代等がかかる場合があります。



## Q4 実際にやってみみたいときの具体的な手順は？



### STEP 1 教職員の気付き

日頃の学校生活の中で、このようなことはありませんか？

「やりたい」「伝えたい」「広げたい」「充実させたい」「人手さえあれば」「困った」「いいアイデアはないか」…等。それこそが、地域との連携・協働にチャレンジするチャンスです！



### STEP 2 地域連携教員への相談、依頼

- ① 同僚や所属学年・校務分掌チームのメンバー、社会教育主事有資格教職員（※）に自分の思いを伝えてみましょう。仲間との話し合いで出てきたアイデアの中から活動内容を精選していきます。  
※栃木県では、学校・家庭・地域の連携を進め、地域の教育力の向上を図るため、社会教育主事となる資格を有する教職員の全校配置を目指し、計画的に社会教育主事講習に派遣しています。上都賀地区では全教職員のうち、11%が有資格者です（R5実績）。
- ② 活動内容がある程度決まったら、【資料2】**地域との連携・協働 相談シート**（👉P15）を作成し、このシートを携えて**地域連携教員**に相談に行きましょう。
- ③ 詳細について具体的な打合せをしたあと、地域連携教員を通して地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）等に活動に適した連携・協働先（講師、ボランティア等）を見つけていただきます。

**重要!**

◎地域連携教員との打合せでは、連携・協働先（講師、ボランティア等）に対し「〇〇をして欲しい」という要望だけでなく、子どもたちと一緒に育むパートナーとして、連携・協働先（講師、ボランティア等）にもメリットがあるように“一緒に何ができそうか”を考えることが大切です。



### STEP 3 いざ、地域との連携・協働！（当日）

#### Plan：顔合せ（事前）

担当の教職員と地域ボランティアでそれぞれの役割分担を確認します。特に、児童生徒に関する配慮事項や安全面での注意事項について共通理解しておきます。

例：〇〇川の探索学習（小4）  
総合的な学習の時間

#### Action：改善（後日）

活動のねらいに照らし合わせ、内容や大人の関わり方が適切だったかを、子どもの変容やボランティアの声をもとに点検し、よりよい活動に改善します。（👉P20）



#### Do：活動（事中）

活動のねらいに合わせて、〇〇川水域の環境の説明や水生生物の捕獲の仕方を教えていただきます。子どもたちの主体性を養うため、手を出しすぎないようお願いしておきます。

#### Check：ふりかえり（事後）

活動が終了したら、立ち話でも良いので地域ボランティアとともにふりかえりを行います。その後、ボランティアには控え室に移動していただき、**ふりかえりシート（※）**を記入してもらいます。ボランティア室として、空き教室を有効活用している学校がたくさんあります。

ふりかえりシート（※）の例

ボランティアノート			
日時	お名前	活動	感想等
9/22	上野智花子	〇〇川の探索学習	案外に容易に川に落ちたので、安全面に留意して参加しました。
〃	日光太郎	〃	川へ降りた瞬間、もう一歩あるとよいと思う。
〃	藤田良太	〃	別の季節に見られる生物にも興味を持って聞いてほしい。



【資料2】地域との連携・協働 相談シート



※このシートは、地域との連携・協働をやってみたいと考えている人が作成します。記入後に、このシートを携えて地域連携教員に相談に行きましょう。

📁 基本情報

1	地域連携教員 への相談日	①	令和	年	月	日	( )
		②	令和	年	月	日	( )
2	依頼者						


📁 相談内容

1	何を?	( )科 ・ 道徳 ・ <b>総合的な学習の時間</b> 特別活動 ・ 学校行事 ・ 部活動 ・ その他 ( )					
		学年 (人数)	( 4 ) 年 ( 28 ) 名				
		内容	※活動のねらい 学校協の〇〇川の水質やそこに住む水生生物の捕獲の仕方について学ぶ。				
2	なぜ?	※どうして連携・協働をしたいと思っているのか(目的) 特に水生生物について専門的な説明をお願いしたい。活動中の児童の安全を確保したい。					
3	いつ?	日にち	令和	年	月	日	( )
		時間	:	~	:	( )	校時
4	どこで?	※予定会場 〇〇川					
5	誰と?	※講師やボランティア等具体的な希望を書きましょう。 〇〇川水域の環境の説明ができる方(2名以上) 水生生物の捕獲の仕方を教えてください方(2名以上) 川までの引率と活動の安全を見守ってください方(4名以上)					
6	どのように?	※どんなことをしたいのか、具体的な希望を書きましょう。 実際に〇〇川に行き説明を聞きながら、水生生物の捕獲にチャレンジしたい。					
7	連携・協働先に望むことは?	※子どもたちとどのように関わっていただきたいのか、学校として育成を目指す資質・能力に照らし合わせて具体的な希望を書きましょう。 積極的に活動することが苦手な子が多いので、手を出しすぎないで見守って欲しい。					

📁 打合せメモ

【プログラム4】

テーマ	C-① 「フィールドワークに出かけよう」
ねらい	地域の教育資源（ヒト・モノ・コト）の情報を収集し、地域理解を促進するとともに、地域の人とのつながりを深める。

参加対象	全教職員、地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）、公民館職員、学校運営協議会委員、PTA本部役員	<p>&lt;スタート、ゴール&gt;</p> <p>・校庭（朝礼台前）</p> 
参加人数	全教職員数＋地域コーディネーター数＋公民館職員数＋学校運営協議会委員数、PTA本部役員数	
講師等	自治会長4名（学区内東西南北地区）	
実施時間	120分	
実施時期	春季休業中最後の職員会議（4月）	1グループ：（参加人数÷4）名
実施場所	学区内各地区方面	

準備物	<input type="checkbox"/> グループ分け用のくじ（👉P17） <input type="checkbox"/> インタビューリスト（👉P17） <input type="checkbox"/> 名札（👉P17） <input type="checkbox"/> タブレット（各自）
-----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

流れ	内容
アイスブレイク 【5分】	○「合わせてぴったり」（👉P27） ・これから巡る地区の地図や名所等の写真を使ったくじでグループ分けをすることにより、フィールドワークへの期待を膨らませる。
ワーク1：体験 【10分】  【85分】  【10分】	○「せんせいたちのまちたんけん」 ①案内者紹介 ・地域連携教員から各コースの案内者の紹介を聞く。 ・グループで参加者の自己紹介を行う。 ②フィールドワーク ・学校を中心にした東西南北4つのコースに分かれ、案内者と徒歩で巡る。教育資源になり得る箇所や情報を各自タブレットに記録する。 ③全体報告・共有 ・帰校後にフィールドワークで得た情報や感想等を全体で報告し合う。
ふりかえり 【10分】	○「こんないいところみつけたよ」 ・グループでフィールドワークの中で気付いたことや新たな発見、活動を通して考えたことを一人ずつ発表する。

評価	<input type="checkbox"/> 内容、方法、日時の設定、運営の在り方は適切であったか  <input type="checkbox"/> 成果・課題
----	-------------------------------------------------------------------------------------------

## 実施のポイント

### ワーク1：体験【105分】「せんせいたちのまちたんけん」

#### <事前準備>

※ 新年度のスタート時期(4月)に実施するため、前年度のうちに下記のような計画で準備を進める。

#### ●前年度2月

##### ○案内者選定(4コース)

・学校を起点に「東西南北」の4コースを設定し、案内者を選ぶ(地域コーディネーターと打ち合わせる)。

(候補者の例) 地域の自治会長、元PTA会長、元保護者 など

※このプログラムでは、例として「自治会長」に設定。

※自治会長に案内者を依頼する場合、学校運営協議会委員の自治会長に連絡し、東西南北4地域内の自治会長の代表4名を選定してもらうとよい(講師選定は一任する)。



#### ●前年度3月

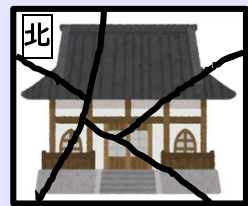
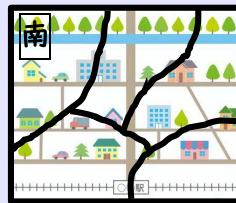
##### ○コースの設定と、グループ分け用のくじ作り

① チェックポイント(名所、旧跡、おいしい店、老舗など)とコースについて、案内者と打合せを行い、決定する(チェックポイントは3~4箇所を選定)。

② コースが決まったら、歩くコースの地図(手描きでもよい)や、コース内にある名所の写真等を使い、グループ分け用のくじをA4サイズで東西南北の4セット作成する(右図参照)。

③ 用紙を5分割※し、封筒や箱に入れておく。※グループ人数による

④ チェックポイントまでの道中をコミュニケーションの時間と捉え、各グループ共通で行う案内者へのインタビュー内容を定める。  
(例)「こどもの頃の話」、「昔みんなでやった遊び」など



(グループ分け用くじの例)

くじに「南」「北」等を入れておくと、グループ分けと同時にコース決めもできる。

<実施当日> ・参加者全員の名札を作成し、お互いの名前が分かるようにする。

### 要点 名札の作成について

・ラベルシールを使い、手書きして胸に貼るか、またはネックストラップ型の名札に情報を記入するとよい(右図参照)。



名前と所属だけでなく、趣味や好きな食べ物など、自己開示できる内容を入れるとよい!

(例) ○○ ○○(氏名)

○年○組担任(所属)



海釣り(趣味)

### +α こんなこともできそう♪

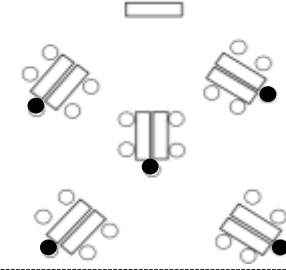
仕入れた情報を使って、子どもたちと一緒に「地域クイズ大会」をやっちゃおうかなあ! 案内者の方にクイズを作っていただいて、お昼の放送で「地域クイズ」を出してもらうのもありだね♪



フィールドワークのあと、桜のきれいな場所で「お花見ランチ」ができれば、たくさんお話ができて、もっと仲よくなれそう♪

【プログラム5】

テーマ	C-② 「もっと教えて 地域のこと」
ねらい	自治会長へのインタビューを通して、各地域の魅力や実情を知るとともに、地域の方との顔の見える関係づくりを行う。

参加対象	全教職員、地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）、公民館職員	会場レイアウト <アイランド型> 
参加人数	全教職員数+地域コーディネーター数+公民館職員数	
講師等	学区内の自治会長	
実施時間	100分	
実施時期	夏季休業中（7月下旬～8月）	1グループ：（参加人数÷自治会長数）名 ・自治会長の人数分のグループ数とし、教職員は若手・ベテラン混合で事前に設定する。各グループ、進行とタイムキーパーを決めておく。
実施場所	会議室	

準備物	<input type="checkbox"/> 質問カード（👉P19） <input type="checkbox"/> 名札（👉P17） <input type="checkbox"/> タブレット
-----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------

流れ	内容
アイスブレイク 【10分】	○「実は私、〇〇なんです」（👉P23） ・グループのメンバーの隠れた一面を知り、互いの親近感を深める。
ワーク1：説明・協議 【5分】  【30分×2回】	○「ねえねえ教えて！会長さん」 ①講師紹介 ・地域連携教員から講師の自治会長の紹介を聞く。 ②「いろいろ聞かせて！会長さん」（15分） ・自治会長から自身の地域や自治会の魅力、実情についての話を聞く。 ③「もっと知りたい！会長さん」（15分） ・さらに聞きたい内容の質問カード（👉P19）を提示し、深掘りしていく。気になったところや必要な情報を各自タブレットに記録する。 ※②③はセットとしグループで移動して二人の自治会長からお話を伺う。 ④インタビューで得た情報や感想等を全体で報告し合う。
ふりかえり 【15分】	○「いろいろ、わかった！地域のこと」 ・グループで地域や自治会について分かったこと、話を聞いて考えたことや感想など一人ずつ発表する。

評価	<input type="checkbox"/> 内容、方法、日時の設定、運営の在り方は適切であったか <input type="checkbox"/> 成果・課題
----	---------------------------------------------------------------------------------------

## ☞実施のポイント☞

### ワーク1：説明・協議【75分】「ねえねえ教えて！会長さん」

#### <事前準備>

※ 夏季休業中(7月下旬~8月)に実施するため、下記のような計画で準備を進める。

#### ●新年度4月~5月(第1回学校運営協議会開催時など)

○学区内の各自治会長への講師依頼の手順

・「学校運営協議会委員の自治会長」に相談し、学区内の各自治会長に講師を依頼すると効果的。

◎学校運営協議会委員の自治会長にお願いしたい内容

- ①学区内の各自治会長への講師依頼
- ②当日参加が可能な自治会長のとりまとめと一覧表の作成(連絡先入り)
- ③参加可能な講師の自治会長との事前打合せの日程調整

遠慮なく手伝って  
もらおうとよいまる!



#### ●新年度6月

○講師の自治会長との打合せ

・事前打合せで、各自治会長に対して、**実施の目的やねらい**を丁寧に伝える。

・実施当日の流れ(👉P18)、講話で話して欲しいこと、**当日は15分間で話してもらうこと**について説明する。

◎自治会長に教えていただく内容

- ①地域に関すること …団体や組織で構成されている祭り、イベント、年中行事、民俗行事 等
- ②自治会に関すること…世帯数や自治会の活動内容、具体的な事業、自治会の役割、地区の課題 等
- ③個人に関すること …自治会長になった経緯、学習経験やリーダーの経験 等

※資料や写真などが準備できれば持参していただく。

※話したくないことや秘密にしたいことは、無理に答えなくても良いことを伝える。

#### ●実施2週間前まで

○質問カードの準備

#### 「地域の歴史・文化・人」

- ・地域についての特性、歴史的背景
- ・地域の資源(環境、施設、文化財、企業、商店街等)
- ・住民の構成の特徴

#### 「会長の歴史」

- ・個人の歴史(出生地、子どもの頃の思い出)
- ・学校に対する思い
- ・趣味、心がけていること

#### 「会長になった理由」

- ・自治会長になった(選ばれた)経緯
- ・自治会長になって考えたこと
- ・自治会長として今思うこと

#### 「会長の活動内容」

- ・普段、自治会長は何をしているのか
- ・日ごろ行っている具体的な活動内容
- ・どんな人と関わることが多いか

#### 「自治会の役割」

- ・自治会は何のための組織なのか
- ・自治会に入ること得られることは
- ・自治会ではどんな活動をしているか

#### 「自治会活動で感じた

#### 喜び、楽しみ等」

- ・その他、辛いことや今の困りごとなど

#### <実施当日>

- ・参加者全員が名札を着ける(👉P17)。
- ・タイムキーパーは、②や③の活動で時間管理をする。
- ・進行は、③の活動でグループでの話し合いが和やかに進むよう配慮する。

雑談のイメージで、わいわいにぎやかに  
インタビューするまる!



#### +α こんなこともできそう♪



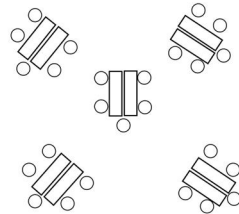
学校規模や地域性も考えて、児童や生徒  
と一緒に参加してもよさそうですね。

授業や行事でも活用できそうだなあ。  
楽しい話が聞けそうですね!



【プログラム6】

テーマ	C-③ 「地域学校協働活動を見直そう」
ねらい	地域学校協働活動のうち、学校と地域の連携・協働活動（授業補助・ふるさと学習・課題解決学習・キャリア教育支援・読み聞かせ・登下校の見守り・学校行事等）の見直しに必要な視点に気づく。

参加対象	全教職員	会場レイアウト <アイランド型> 
参加人数	全教職員数	
ファシリテーター	社会教育主事有資格教職員 ※いない場合は、地域連携教員	
実施時間	90分	
実施時期	11月	
実施場所	会議室	

1グループ：4～5名  
・学年別、若手・ベテラン混合のグループを事前に設定する。各グループ、進行と発表者を決めておく。

準備物	<input type="checkbox"/> 模造紙 <input type="checkbox"/> ペン <input type="checkbox"/> 付せん紙（2色）
-----	--------------------------------------------------------------------------------------------

流れ	内容
アイスブレイク 【10分】	○「餃子じゃんけん」（👉P25） ・たくさん「いただきます」ができたグループ→「気が合わないメンバー」（出したじゃんけんがバラバラだった回数が多いともとれるから）、できなかったグループ→「気が合うメンバー」など、ものの見方は一つではないことに気付くようにする。
ワーク1：協議 【10分】 【10分】 【25分】 【25分】	○「“まちあるき”ってこれでいいの？」 ・“まちあるき”のモデルプログラムを使って、活動の見直しをする。 ①実際に“まちあるき”を実施したことを想定して、グループで活動の成果と課題を出し合う。 ②活動のねらいは何かについて、グループで自由に意見交換を行い、ファシリテーターの指名により、2グループが発表する。 ③活動が学校として育てたい資質・能力に向かう内容であったかを見直す。 ④③の内容を踏まえ、グループで活動を見直すときに必要な視点をまとめる。
ふりかえり 【10分】	○「こうすればうまくいく！地域学校協働活動」 ・グループで活動の見直しに必要な視点について考えたことを一人ずつ発表する。

評価	<input type="checkbox"/> 内容、方法、日時の設定、運営の在り方は適切であったか  <input type="checkbox"/> 成果・課題
----	-------------------------------------------------------------------------------------------

## 実施のポイント

### ◎ “まちあるき” のモデルプログラム

《学校概要》・新興住宅地にある中規模校 ・核家族が多い

- ・真面目で素直な子どもが多い反面、全般的に受け身の姿勢であり、自分の思いを表現することが苦手な傾向がある。
- ・今年度学校として育成を目指す資質・能力を「**かかわり合う力**」としている。

↳ 互いのよさを生かしながら課題解決しようとする力

《活動概要》・総合的な学習の時間（2時間扱い）

- ・毎年決まったコースを歩き、恒例となっている。
- ・安全面の確保のため、保護者に協力を得ている。

### <実施当日>

ワーク1：協議【70分】 「“まちあるき”ってこれでいいの？」

### ファシリテーターの協議の進め方

《ファシリテーター》

《学習者》



“まちあるき”の成果と課題をグループで話し合ってみましょう。

時間どおりに活動ができて良かったわ。



行き先を案内してしまう保護者がいたなあ。



そもそも“まちあるき”のねらいは何でしょう？

住んでいる町のことをよく知るため？



**重要!** そうですね!もちろん単元のねらいの達成のためにやっています。でも実は、この活動をとおして本校として育成を目指す資質・能力である「**かかわり合う力**」を子どもたちに身に付けるという、もう一つのねらいもあるのです。



“まちあるき”を通して、子どもたちに「**かかわり合う力**」を身に付けさせるためには、何ができそうでしょうか?アイデアを付せんに書いてみましょう。

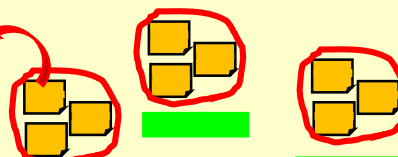
(模造紙の使い方の例)

そうだったのね!



### 「かかわり合う力」を育むためのアイデア

回覧板で周知し、商店や近隣の方々にも見守ってもらうよう依頼



「多くの人たちを巻き込む」



付せんに模造紙に貼った後に、似ている意見をまとめて、見出しをつけましょう。



どのような見出しがついたかを、グループごとに発表しましょう。



**重要!** 皆さんがつけた見出しこそが、学校と地域の連携・協働活動を見直すための“視点”なのです。

### そもそも「地域学校協働活動」って何???

地域の高齢者、成人、学生、保護者、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して地域と学校が相互にパートナーとなって行う様々な活動のことです。

このうち学校と地域の連携・協働する活動には、授業補助、ふるさと学習、課題解決学習、キャリア教育支援、読み聞かせ、登下校の見守り、学校行事等があります。

# 第 3 章

【アイスブレイク編】安心して参加できる雰囲気を作りましょう！



アイスブレイク (Ice break) とは、緊張感のある場を和ませるためのコミュニケーション活動です。緊張感のある空気を「氷 (Ice)」に例え、その雰囲気を「砕く (break)」という意味です。

研修のねらいにつながる内容を選んで、プログラムに取り入れ、学習者の心をほぐしていきましょう。

## 1 自己紹介

P23

- 1 うそを見破れ自己紹介
- 2 自己紹介ビンゴ
- 3 ジェスチャー自己紹介
- 4 イニシャル自己紹介
- 5 心の天気自己紹介
- 6 実は私、〇〇なんです

## 2 あいさつ・ゲーム・軽運動

P24

- 1 日の出
- 2 大きな拍手
- 3 グーパー
- 4 後出しじゃんけん
- 5 親指小指
- 6 赤いくつ
- 7 パチパチ！ルーレット
- 8 餃子じゃんけん
- 9 どっちを選ぶでショー
- 10 私を肯定的に見ると

ねらいにぴったりの  
ものを選ぶまる！

## 3 クイズ

P26

- 1 並べかえたら何になる？
- 2 ものの見方・考え方
- 3 伝わる・受け止める
- 4 知っていますか？100円玉
- 5 ナインドット



## 4 グループ作り

P27

- 1 バースデーライン
- 2 拍手でグループ
- 3 合わせてぴったり

## 5 ワークシート

P28





## 1 自己紹介

### 1 うそを見破れ自己紹介

P28 ワークシート1

- ① 自己紹介カードの4文のうち、1つだけうそを書きます。
- ② カードを見せながら、自己紹介します。
- ③ 聞いている人は、うそを予想し、正解を聞きます。

### 2 自己紹介ビンゴ

P30 ワークシート5

- ① ビンゴのマス好きなところに、8つの質問に対する回答を書きます。
- ② 自分の名前の紹介のあと、8つの回答を紹介します。
- ③ 聞いている人は、自分が回答したものと同じ回答があったら、その欄に○を付けます。
- ④ 全員の自己紹介が終わったら、タテヨコナナメ何列ビンゴができたか数えます。

### 3 ジェスチャー自己紹介

- ① 順番に自分の好きなことや得意なことを、ジェスチャーで発表します。
- ② 見ている人は、答えを当てます。(正解・不正解もジェスチャーで表します)
- ③ (ここからは無言です)  
全員の紹介が終わったら、向かい合ってその場に立ち、グループのリーダーがランダムにメンバーの誰かを指差します。
- ④ 指名された人の好きなことや得意なことを思い出し、全員でジェスチャーします。

### 4 イニシャル自己紹介

- ① 自分の名前を使って、元気の出る言葉をつくり紹介します。  
・例：と…ともだちたくさん  
ち…ちいさなことは気にしない  
ま…まえむきで  
る…るんるん元気な とちまるです！



### 5 心の天気自己紹介

- ① 今の気持ちを、天気に例えて発表します。  
・例：「私の名前はとちまるくんです。今日の心の天気は晴れです。理由は、今晚久しぶりに友人と食事に行くので、とても楽しみだからです。」

### 6 実は私、○○なんです

- ① 好きなモノ・ヒト・コト、最近の“推し”などを○○に入れて発表します。  
・例：「実は私、とちまるくんの大ファンなんです。理由は、丸くて大きな頭がかわいくていつも笑顔なので、元気をもらえるからです。」



## 2 あいさつ・ゲーム・軽運動

### 1 日の出

- ① 横を向きます。
- ② 左手をまっすぐ伸ばし（地平線）、右手をパー（太陽）にします。
- ③ 地平線を固定したまま太陽を上下に動かし、地平線と重なるところで手をたたいてもらいます。
- ④ ゆっくりからだんだん速くしたり、三三七拍子のリズムで動かしたりします。

### 2 大きな拍手

- ① 「大きな拍手！」パン、パン、パン（大きく）
- ② 「小さな拍手！」パン、パン、パン（小さく）
- ③ ①②を繰り返します。
- ④ 途中「間抜けな拍手！」2回目の拍手は空振り+変顔にもチャレンジします。

### 3 グーパー

- ① 右手はパーにして前に出します。左手はグーにして胸におきます。
- ② 「ハイ」という合図で、手を入れ替えます。
- ③ 速さを変えてやってみます。
- ④ 慣れてきたら、前はグー、胸はパーにします。
- ⑤ 最後に、手を入れ替えるときに拍手を1回してから入れ替えてみます。

### 4 後出しじゃんけん

- ① かけ声の練習をします。
  - ・ファシリテーター：「じゃんけんぽん！」
  - ・参加者：「ぽん！」
- ② 始めは、参加者は必ずファシリテーターにあいこになるものを出します。
  - ・例：ファシリテーター（パー）→参加者（パー）
- ③ 慣れてきたら、勝つものを出します。
- ④ 最後に、負けるものを出します。

### 5 親指小指

- ① 手を開いて両手を前に出します。
- ② 「1、2、3、4、5、6、7、8、9、10！」のかけ声に合わせて、両手の指を1本ずつ折って数えていきます。
- ③ 次に右手と左手を1ずつずらして、指を折っていきます。
- ④ 徐々にスピードアップしてみましょう。

## 6 赤いくつ

- ① 手の位置を確認します。
  - ・ <右手>色を表します…上：赤、下：白
  - ・ <左手>はきもの種類を表します…上：くつ、下：げた
- ② ファシリテーターの指示に従って、右手と左手を組み合わせます。
  - ・ 例：ファシリテーター：「赤いくつ」→参加者：<右手>上<左手>上
  - ・ 例：ファシリテーター：「白いげた」→参加者：<右手>下<左手>下
  - ・ 例：ファシリテーター：「赤いげた」→参加者：<右手>上<左手>下

## 7 パチパチ！ルーレット

- ① ファシリテーターを中心に、参加者は円になります。
- ② 時計回りに順番に手を叩いていきます。
- ③ 手を叩く間隔を短くしていきます。
- ④ 手を叩いている途中に、ファシリテーターが笛で合図をし、聞こえたら反対回りにします。

## 8 餃子じゃんけん

- ① 3人以上のグループを作ります。
- ② 「ぎょうざ」のかけ声で、グーは「肉」チョキは「にら」パーは「皮」のじゃんけんをします。
- ③ グループの中で、「肉」「にら」「皮」全ての材料がそろったら、手を合わせて「いただきます！」と言います。一つでも材料が足りないときはやり直します。1分間続けます。
- ④ グループごとに、何回「いただきます！」ができたかを数えておきます。
- ⑤ 「いただきます！」の数を発表し合います。

## 9 どっちを選ぶでショー

P28 ワークシート2

- ① 質問に対し、2つの答えのうち自分にあてはまる方を選びます。
- ② その時、選んだ理由も考えておきます。
- ③ 好きな質問を選び、どちらの答えを選んだのかを理由とともに伝え合います。

## 10 私を肯定的に見ると

P29 ワークシート3

- ① 自分の性格などについて、欠点だと思うことやマイナスイメージで捉えていることを、「否定的な私」の欄に書きます。
- ② ①の欄に書いたことを肯定的な言い方（プラスイメージ）に言い換えるようになるかを考え、「肯定的な私」の欄に書き直します。
  - ・ 例：私は けち です。 → 私は 儉約家 です。



### 3 クイズ

#### 1 並べかえたら何になる？

① カードを並べかえて、あるワードを完成させます。

・例：に こ は ん ち (こんにちは)

・例：き し ん し ゆ (ししゅんき)

#### 2 ものの見方・考え方

- ① 図Aを見て、何が見えるか考えます。
- ② 図Bを見て、女性の年齢を考えます。
- ③ 今までに一面的な見方しかできずに決めつけてしまった経験はないか考えます。



顔のYZ/型C



髪を/髪み

#### 3 伝わる・受け止める

- ① 無地のA4サイズの紙を受け取ります。
- ② 目を閉じて、右のファシリテーターの指示を聞き、そのとおりに作業します。
- ③ 目を開いて、開いた紙を見せ合います。
- ④ 同じ指示を聞いても人それぞれ受け止め方は違います。人に何かを伝えるときは、相手の立場に立って考えることが大切であることに気づきます。

#### 【ファシリテーターの指示】

- ① 紙を半分に折ります。
- ② 右上をちぎります。
- ③ また、紙を半分に折ります。
- ④ 右下をちぎります。
- ⑤ また、半分に折ります。
- ⑥ 左下をちぎります。

#### 4 知っていますか？100円玉

- ① 普段の生活の中で100円玉をよく使っていることを確認します。
- ② 100円玉を思い浮かべ、表面を絵で描きます。
- ③ 実際のものとは見比べます。
- ④ 物事を正しく見るには、「意識する」ことが大切であることに気づきます。

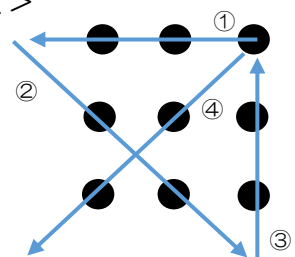


#### 5 ナインドット

- ① 9つの点のあるワークシートを受け取ります。
- ② 4本の直線（一筆書き）で9つすべての点を通る線を描きます。
- ③ 9つの点からはみ出して線を入れなければ一筆書きにならないことを知ります。
- ④ 型にはまった考えから抜け出せない自分があることに気づきます。

P29 ワークシート4

<答え>





## 4 グループ作り

### 1 バースデーライン

- ① 声に出さずにジェスチャーなどでコミュニケーションをとりながら、誕生日の月日順に並びます。
  - ② 並び終わったら、順に誕生日を発表し、活動をふりかえります。
  - ③ 並んだ順番で、グループ作りをします。
- ※ 「大切な日」や「開場までの所要時間」、「電話番号の下2桁」などでも応用できます。

### 2 拍手でグループ

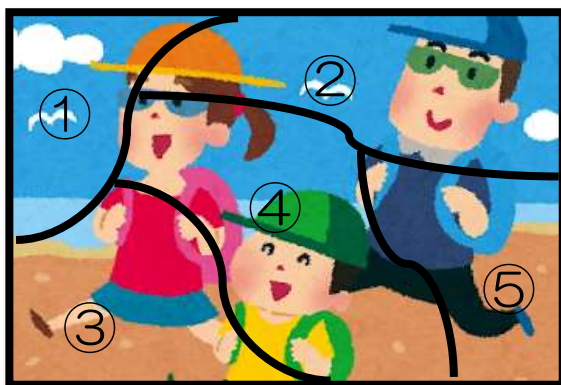
- ① ファシリテーターが拍手をします。
  - ② 参加者は拍手の数の人数で集まり、その場にすわります。
- ※ 動物の名前「ぞう」（2人）、「うさぎ」（3人）、「チンパンジー」（6人）や、スポーツの出場人数「野球」（9人）、「バスケットボール」（5人）などでも応用できます。

### 3 合わせてぴったり

- ① グループの人数分に切り分けられたポスターや絵、写真の一部を受け取ります。
- ② 同じ種類のポスターや絵、写真を持っている人を探して集まり、元の状態に戻して完成させます。

例：4人用

例：5人用





## うそを見破れ自己紹介

\* 4つの文うち、一つだけ「うそ」を書きましょう

① 私は、	です。
② 私は、	です。
③ 私は、	です。
④ 私は、	です。



## どっちを選ぶでショー

\*好きな方を選んで○を付け、理由を考えましょう

① 好きな季節は？	A 夏	B 冬
② 朝は？	A ごはん派	B パン派
③ 旅行に行くなら？	A 飛行機	B 船
④ 朝の占いは？	A 信じる	B 信じない
⑤ 友達は？	A 広く浅く	B 深く狭く



## 私を肯定的に見ると

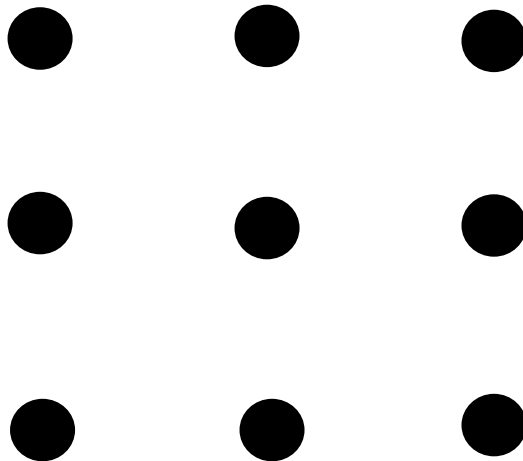
\*自分の欠点だと思ふことやマイナスイメージで捉えていることを「否定的な私」に書いたあと、肯定的な言い方（プラスイメージ）に換えて「肯定的な私」の欄に書き直してみましょう。

否定的な私	肯定的な私
(例) 私は、 <u>      けち      </u> です。	(例) 私は、 <u>      儉約家      </u> です。
私は、 <u>                    </u> です。	私は、 <u>                    </u> です。
私は、 <u>                    </u> です。	私は、 <u>                    </u> です。



## ナインドット

\*4本の直線（一筆書き）で9つすべての点を通る線を描き入れましょう。




## 自己紹介ビンゴ

\*ビンゴのマス好きなどところに、次の8つの質問に対する答えを入れましょう。

### 【質問】

- 1 今日どこから来ましたか？
- 2 今の気持ちを色で例えると何色ですか？
- 3 好きな食べ物は何ですか？
- 4 おいしいものが食べられるおすすめのお店はどこですか？
- 5 学生時代に好きだった給食のメニューは何ですか？
- 6 休みの日には何をしていますか？
- 7 宝くじで100万円当たったら何をしますか？
- 8 タイムマシーンに乗れたらいつの時代に行きたいですか？



## 【作成委員】

No.	学校名(所属)	役職	氏名	備考
①	日光市立落合西小学校	教頭	宮崎 哲	上都賀地区現職教員社会教育主事会 (事務局長)
②	鹿沼市立石川小学校	教頭	福田 勝彦	上都賀地区現職教員社会教育主事会 (事務局次長・会計)
3	日光市立日光中学校	教頭	渡辺 聡	上都賀地区現職教員社会教育主事会 (会員)
4	鹿沼市立みどりが丘小学校	教諭	諸橋 順子	上都賀地区現職教員社会教育主事会 (事務局員・研修部)
5	日光市立今市小学校	教諭	駒田 友昭	上都賀地区現職教員社会教育主事会 (事務局員・会計)
6	鹿沼市立さつきが丘小学校	教諭	菊地 宏佳	上都賀地区現職教員社会教育主事会 (会員)
7	日光市立今市第二小学校	教諭	湯澤 浩之	上都賀地区現職教員社会教育主事会 (事務局員・研修部)
8	鹿沼市教育委員会事務局生涯学習課	社会教育指導員	高木 誠	元校長
9	日光市教育委員会事務局生涯学習課	主幹	福田 貴子	社会教育主事兼指導主事
10	栃木県総合教育センター	副主幹	柏崎 友洋	栃木県教育委員会事務局 (社会教育主事)
11	上都賀教育事務所 学校支援課	副主幹	増田美紀子	栃木県教育委員会事務局 (指導主事)
12	上都賀教育事務所 学校支援課	副主幹	大森 一久	栃木県教育委員会事務局 (指導主事)

◎：委員長、○：副委員長

## 【事務局】

No.	所属	役職	氏名	備考
1	上都賀教育事務所 ふれあい学習課	副主幹	神山 幸江	栃木県教育委員会事務局 (ふれあい学習課長)
2	上都賀教育事務所 ふれあい学習課	副主幹	大橋 礼子	栃木県教育委員会事務局 (社会教育主事)
3	上都賀教育事務所 ふれあい学習課	社会教育主事	宮田 一士	栃木県教育委員会事務局
4	上都賀教育事務所 ふれあい学習課	社会教育主事	矢島 隆宏	栃木県教育委員会事務局

## 【参考資料】

- 「地域連携教員のための手引き書」 栃木県教育委員会 平成 29 年 3 月



- 「学校と地域の連携・協働推進ハンドブック」 栃木県教育委員会 令和 5 年 3 月



地域連携教員・社会教育主事有資格教職員向け  
【上都賀版】「地域とともにある学校づくり」推進のための

# 校内研修トリセツ

令和6年(2024)年2月発行

< 編集・発行 >

栃木県教育委員会事務局上都賀教育事務所ふれあい学習課  
〒322-0068

栃木県鹿沼市今宮町 1664-1

TEL : 0289-62-7167

FAX : 0289-62-0148

E-mail : kamitsuga-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp

< 協 力 >

上都賀地区現職教員社会教育主事会

鹿沼市・日光市教育委員会

栃木県総合教育センター





VERY   
GOOD  
LOCAL

---

とちぎ